中高生とともに差別と闘う

『追い込まれたときこそ人権教育』

吉成タダシ（うずしおブランチ代表）

前号では、「空気を読む（逆KY）あまり、言いたいことが言えない」という状況から解放されるために、発想の転換が必要であるということ、「分断の積み重ね」ではなく、「つながりの積み重ね」の授業に転換していく必要があるということ、について述べました。

あと少し。

数学という学問性

数学という学問性として、「正しさを確かめ、積み上げながら正しい答えを導き出す」という性質があります。（別に数学に限ったことではありませんが）つまり数学という学問性を通して、物事を筋道立てて考え、論理的に捉えられるようになることが目標としてあるわけです。

しかしこれは、いじめ問題や差別問題を考えるうえでも大変重要な要素です。余計な感情を排し、論理的に物事を捉えていけば、多くの問題が解決につながっていくように思われます。それをしないから、おかしなことになってしまう。

今回、数学の授業と人権との関わりについてお話ししてきましたが、まとめてみると次のようになります。

一、自分から考えや意見を述べる
二、違いを知る
三、間違いを正していく
四、仲間づくりの授業を創造する

つまり数学の授業でも、人権との関わりは持てるし、その視点を持っておかなければいけないのではないか、ということです。すべては、学校や社会からいじめや差別をなくすために。けど、そんな視点で授業を見てる人って、どれだけいるんだろう…と思います。

法切れ前、同和教育中核論という言葉がありました。法切れで「人権教育」に変わるとともに、行政用語としては使わなくなった言葉です。ですがこれ、あらためて見つめ直してみると、よくできた言葉であり、概念です。同和教育の視点が教育のすべての場面において必要であり、すべての教育の中核に据えられなければならないということです。つまり、これまで私が述べてきた、「数学の授業と人権との関わり」は、その一部だということです。かつこれは、別に数学の授業だけに限った話ではありません。先にまとめた四つの項目に、数学的な用語はまったくありません。つまり、他の教科でも活用可能ということです。あとは、そういった視点で授業に向き合っていくかどうかということです。

自己表現力の育成を人権の視点で

また四つの項目は、別の言い方をすれば、「自己表現力の育成」とも言えます。となると、もはや教科授業の有り様にとどまらなくなってきます。

例えば、絵画や音楽、書道、文芸、演劇、弁論、ダンス、スポーツ、ありとあらゆる表現活動が、自己表現活動です。それらの表現活動に、「人権の視点」を明確に持つことができれば、ものの見方や世界観が、まるっきり変わってしまわないでしょうか。現に、自らの中に激流のようにほとばしる人権・反差別への熱情を、芸術やスポーツの分野で昇華させているケースはたくさんあります。むしろ世界的に見れば、その方が主流でないか、とすら思えます。

余談ですが、宮崎駿監督のジブリアニメが国際的に高い評価を得たのは、そういった思想が根底に流れていると感じとられたからではないかと思っています。

「風の谷のナウシカ」でナウシカの家臣が、「姫様はこの手を好きだと言うてくれる、働き者の綺麗な手だと言うてくれましたわい」と、歪んだ自らの手をなでながら言うシーンがあります。その場面を見るたびいつも、ハンセン病問題で出会ったたくさんの人たちの顔が、手が、私の脳裏に浮かんできます。

いずれにせよ、そんな「人権の視点」を明確に持って、私たちの学校や授業自体も、もっともっと変わっていいのではないかと思うわけです。

追い込まれたときこそ人権教育

ラグビーW杯日本代表、予選最終戦、スコットランド戦。にわかラグビーファンの私でも、さすがに感動しました。震えました。ちょっとだけ涙もちょちょ切れました。でも更に感動したのは、試合後の選手インタビューでした。「今日のために四年間、すべてを犠牲にしてきた」と言う言葉に、「大げさな」と思いもしましたが、あの凄まじいプレーを見ていると、「本当にそうだったんだろうな」と思わせられました。おそらくは極限状態にまで自分を追い込み続けてきたのだと思います。

けどそんな状況ならば、周りに気も配れず、自分のことしか見えなくなるようにも思うのですが、それは未熟で浅はかな自分だからそう思うのだと反省しました。選手たちからは、台風一九号で亡くなった方たち、被災された方たちへの言葉が溢れていました。試合にも感動したのですが、その言葉に一回りも二回りも感動の輪は大きくなりました。人間、そうありたいものです。私もそうありたいし、子どもたちにもそうあってほしいものです。受験期となれば、自分のことで精一杯で、周りが見えなくなることもあるかもしれません。しかしそのときこそ、「自分」という人間が試されているのであって、そのことこそ、渦中に居る子どもたちと共に考えていかねばならないのだと思います。つまり、受験期こそ人権教育を、追い込まれたときこそ人権教育を、と思うのです。そんなときこそ、人間としての真価が問われるのだと思います。

今年も残りあとわずか。いろんなことのあった一年でした。新年はいよいよオリンピックイヤー。自然災害の多い日本。無事に終えられることを、また皆さんにとって素敵な一年となることを、お祈りしています。

イラスト　中島　亜唯